CPCS（シーピクス）の「レベル２（中級／CPCS-2）」に関するメッセージ

2015年6月7日の総会において、シーピクスが誕生してから、早くも6年が経とうとしています。その間、多くの方々がこの認定資格に関心をお持ちくださり、2021年2月1日現在、87名の方々がレベル1を取得されておられます。主としてレベル2を目指されておられる方々に向けて、過去2回のＡ研修会を開催した経験から、ここに改めてシーピクス制度の意味を含めて、ご紹介させて頂きます。

　包括システムによるロールシャッハ・テストを使いこなす目的は、主として心理支援における援助そのものに役立たせるためであり、その中に対象者の自己理解の促進も含まれています。正確にコーディングすることが大切とされるのは、ひたすら対象者のありのままの有り様をデータに正確に反映させるためであって、重箱の隅をつつくようなことが無理に要求されているわけではありません。

　Ａ研修会を受講された方々は既に体験されておられるように、「理解度確認のための試験」においては、コーディングや構造一覧表の作成に加えて、架空事例の心理支援について記述を求められます。これは、通常の臨床実践において私たちが行っていること、そのものです。

たしかに、Ａ研修会の「理解度確認のための試験」は、レベル1と違って、格段に難しく感じると思います。時間も余裕が十分にあるわけではありません。しかし、これも私たちの通常の臨床実践とまったく同じことと思います。1つのプロトコルをコーディングして構造一覧表にしてレポートするのに、何日も何日も費やしていることはできません。限られた時間のなかで、対象者やご家族に役立つ支援計画を普段、書かれていると思います。

　シーピクス制度は、受講者の実力を測るためだけのものではなく、この制度を通じて、臨床家としてスキルアップして頂くためのものです。ですから、合格できなかったからと言って、ご自分の臨床が否定されるわけでは決してありません。むしろ、まだ腕を磨く余地がある、自分には伸びしろがある、と思って頂きたく思います。研修会や試験は、認定資格委員会が心を砕いて準備しています。記述式試験の採点も、予めチェックポイントを設定したうえで、お名前やご所属などの個人情報を一切秘匿した状態で、複数の眼で熟読し、公平中立に行っています。

　ぜひとも、何度もチャレンジして頂き、レベル２をクリアーするためのプロセスそのものが貴重な研鑽の機会となり、ひいては日々の臨床に役立つコンピテンシーの獲得につながるように、この制度を活用して頂けましたら幸いです。

　なお、Ａ研修会の合格者は複数でていますが、まだレベル2の申請者はおられません。第一号の誕生を、心待ちにしております。

2021（令和3）年2月12日

認定資格委員会委員長　津川 律子